



割引やチャリティーで盛り上げる

レジャー・クリエイト(居酒屋、客単価3500円、茨城県鹿嶋市)ほか

震災後、激減したお客を呼び戻すために、割引などをうまく活用した店がある。被災地の茨城県鹿嶋市にあるレジャー・クリエイトが運営する「呑処 弦」などでは、3月末に平日3日間、4月にも1週間限定で「がんばろう茨城 100%還元フェア」を行った。期間中に同社の店で飲食をすれば、支払った分と同額の、次回利用できる食事券をプレゼントするという大胆な内容だ。

フェアは非常に好評で、4月のフェア初日の月曜には、同社の居酒屋3店舗中2店舗で平常時の平日の売り上げ目標を超えた。この日は、震度6弱という大きな余震が夕方にあったことを考えると、100%還元の集客効果は大きいと言えるだろう。

「そもそも、新規開店するときには毎回行ってきたフェア。損もしないが得もしないという内容だが、下手な広告を打ったり、何もしないまま赤字になるより、店の認知度は上がり、後々の集客につながる」と藤井理嗣社長は言う。

コスト面から年に何度もできない方法かもしれないが、店を思い出してもらうには、大きく割り引くことで、インパクトを強めるという手は有効だ。

復興支援のために、東京・六本木の「豚組しゃぶ庵」を運営するグレイスや東京・経堂の「パクチャーハウス東京」など5人の店主らが発起人となり、立ち上げたプロジェクトが

「#smileat」。

賛同する店は、共通もしくは独自のチャリティー向けメニューを用意し、売り上げの一部を被災地に寄付するというもので、ユニークな取り組みが話題を集めている。

食べ放題に寄付金を付ける

例えば、「ワンドリンク for 東北」は、1杯のドリンク代から、3月11日を忘れないという意味で311円を店を通じて寄付するというもの。この企画には30店舗以上が参加し、集まった寄付金は150万円を超えた。「パクチャーハウス東京」では、何回頼んでも無料の追加のパクチャー、通称「追パク」代に寄付金を付けた。追パク1回につきお客は100円を支払い、同店からも100円を上乗せして、計200円を被災地に寄付する。3月末の時点で「追パク」回数は82回に上った。募金の数だけ集客にも成功していることになる。

「豚組しゃぶ庵」では、大広間を「豚組食堂」として7日間限定で大人1500円で食べ放題のビュッフェ形式で営業。ドリンクはすべて500円にし、最初の1杯分を被災地に寄付した。震災直後の3月16日(水)夜でも、全110席ある店内の個室を除いた大広間だけで51人の集客に成功。お客からの再度開催の要望が高まり、3月中に再び2日間限定で開催するという好結果を得た。



店内に張ったフェアのポスターとチケット
「呑処 弦」茨城県鹿嶋市鉢形台2-18-5
☎0299-82-9617ほか



「追パク」と寄付の内容を説明するためにお客に渡す紙

写真=丸毛透(一番下)